



# 緑

**Aブロックにエントリーされた全12作品を公開します。**

**覇者となったのは果たして誰??**

**<http://www.columnland.net/> にてごらんください。**

# みどり

みんなごめんなさい

どうがんばっても思いつきません

力量不足です、出直してきます

## 河川敷にて

「父さんの言うとおりにやってもできないじゃん、うそつき！」

「あのなあ、もつとこう、棒の近くで回るんだ。腕を使いなさい」

息子はふくれつらのまま、練習に戻っていった。小学校の友達とは次々に逆上がりに成功している中、自分だけ失敗続きなことを最近悩んでいたらしい。妻に打ち明けられるまで息子の悩みに気づけもしなかった俺は、日曜日を利用して練習を手伝うことにしたのだ。場所は家の近くにある河川敷。かなり広いその場所には、いくつか遊具の設けられた一角があり、そこに小さな鉄棒もある。一人で練習すると意地を張っていた我が子に、俺は無理やりついていった。

河川敷には雑草が生い茂っていた。俺のひざまで覆うほどの長さがあって、遊具までの道はすっかり隠されている。いつの間に草が伸びたのか見当も付かないが、以前は歩きにくいほど深く茂つてはいなかったはずだ。

俺はこの眺めが好きだった。すぐ近くにある今の家に住むことにしたのも、購入当時の景色にほれ込んだからだ。一面にたけの低い草の生えた、広い平地。ここでもら、息子がのんびり遊んでいられる。散歩にだって気軽にこられる。たまには家族でバーベキューもいいかも知れない。息子と一緒にキャッチボールもしてやりたい。

しかし、仕事に追われる身ではなかなか時間など取れなかった。忙しきにかまけて疲れに流されて、家族との時間はどれだけ削られたか分からない。何年もそうしている間に、草はぐんぐん伸びてしまったわけか。足をとられるまで伸びきってしまったら、もうキャッチボールなど出来なくなってしまうのだろうか。

「父さんてば、ついて来るならちゃんと手伝つてよ！」

息子に言われて、俺はわれに返った。父親がぼんやりしている間に息子はずいぶん頑張っていたようだ。まだ成功こそしていないものの、さつきより形がさまになつてきているのである。それを自覚しているのか、息子も一段とやる気を見せている。

この子も、伸びていくのだ。

ふとそんなことに気づいて、ひどく寂しくなった。

馬鹿馬鹿しい。わが子の成長を見て寂しくなる親がどこにいる。この子は別に屈折しているわけでもない。一々俺が関わらなくなつて、こんなに健やかに育っているじゃないか。俺はその背中を押してやるだけでいい。それが父親の役目なのだから。

——違う、そうじゃない、

親の役目なんて分かつているけれど、

伸びきってしまったら、もう——

「なあ」

気がつけば、声をかけていた。

「そんなにあせらないで、ゆつくり練習してもいいんだぞ。父さん、来週も見てあげるから」

「うっさいなあ、もうちよつとでできるよー！」

父のおろかな提案をはねのけたその声は、拍子抜けするほど幼くて、俺はなんだか泣きそうになった。

「はあー…今日も疲れた…」

いつもと同じ言葉をため息とともに漏らしながら夜の家路を歩くごく平凡な俺、二五歳独身、フリーターやってます。毎日の同じことの繰り返しに飽き飽きして、なんか違うことやってみようかな的なノリだったんだろうな。

閉店間近の花屋の前に立っていた。

2時間分の給料をはたいて買ったのはほんの小さな観葉植物。「テーブルヤシ」というくらいだからPCデスクにでも置いて可愛がろう。水遣りは…ほう、2週間に一回でいいなら楽だな。忘れないようにしようか。

それから俺はコイツをうんと可愛がった。

2週間に一回しっかりと水をやり、直射日光を避けた場所に置いてやった。休日はすることがなければぼんやりコイツを眺めた。それでも所在無い俺の日常が明るみを帯びた気がした。

俺はコイツに恋をしていた。

そもそも俺は他人に恋心を抱いたことがないし、恋の定義なんてどうでもいい。これが俺の恋なんだ。気づいたら話しかけていた。黙ってグチ聞いてくれるし、自分から強く主張したりしない。大人しめの彼女だ。こんないい女、人間界どこ探してもいないと思う。デートスポットは専ら俺の部屋。俺がボヤキ、コイツは黙って聞いてくれる。それだけ。

それだけ…なのに、俺は…

やってしまった。俺の愛情を無理やり彼女に押し付けてしまった。気づいたら毎日のようにコイツに水を飲ませていた。コイツは、何も喋らず、枯れるまで堪えていたんだ…俺が…気づかなかった…コイツの気持ちをわかってやれなかった。

その後、立ち直るのに時間を要したが、それでも俺はアイツとの出会いを機に、アイツと初めて出会った花屋で働くことにした。今まで誰からも愛されなかった俺が、誰かを愛することを学んだ。彼女のおかげで新たな第一歩を踏み出せたんだ。

ありがとう、ミドリ。

## ASUPARA

僕は祖父のアスパラが大好きだ

6月になると段ボールに山ほど詰めて送ってくれた  
食卓に並ぶ祖父のアスパラの鮮やかな緑色が大好きだった

幼稚園の頃、一か月もの間、

僕は祖父のアスパラの出荷の手伝いをした事がある

仕事は簡単で、アスパラの太さによって

色テープで数本を一束に止めるというものだった

細いのは白色

普通のは紫色

太いのは黄色

という具合に機械的にテープで束ねていった

あんまりよく覚えていないけど

アスパラを見る度に不思議とその頃のことを頭をよぎる

あの頃から十二年

突然、祖父が今年でアスパラ作りをもうやめると言った  
ショックだった

でも僕にはどうする事もできない

ただ悲しかった

もうあのアスパラは食べられないのか・・・

今、僕の家のお食卓には

スーパーで買ってきたアスパラが並べられている

同じ緑色

だけどどこか違う緑色が切なかった

緑ってこんなに違うこともあるんだって思った

「翠？」

突然呼ばれて振り返ると見慣れた顔が僕をのぞき込んでいた。

「なにやつてたの？もうすぐバス来ちゃうよ」

僕はしゃがんで川をのぞき込んでいた。子供の頃にはよくこの川に来て毎日のようにびしよぬれになって帰った。

「ん？少し川を見に來ただけ」

嘘。もう二時間もここにいます。初夏だからだろうか、じわりとかいた汗でシャツが濡れているのを感じた。そういえば、始めて晴とであつたときに晴は今俺がしていたように川をのぞいていた。あのとき晴はいつたい何をしていたんだろうか。思い出せない。

田舎の町にある、一件のケーキ屋。それが晴の家だ。僕が帰り道に立ち寄ると、人の良さそうなおじさんがいつも小さなケーキをくれた。そしていつの間にかおじさんに憧れるようになった。小学校一年生の時だろうか、授業で「みらいのじぶん」という作文で、自分はケーキ屋になりたいと書いたら周りに「おんなのこみたい」とはやし立てられた。その後、将来の自分というものに悩みながらもケーキ屋になるという道を選んだ。高卒で上京し、ケーキ屋に住み込みで働いている。僕には夢がある。そして今がそのときだ。もうすぐフランスへ行く。いつ帰ってくるかさえ、分からない。

けど、心残りなことがある。まだ自分の気持ちを晴に伝えられない。僕は自然と寄り添うようにいつも一緒にいた。お互いのことが好きだったから、それが当たり前だった。上京して一人で出歩くと、とても寂しさにおそわれた。きっと死ぬまで一緒に晴といないと生きていけないだろう。

—— 何年か経って帰ってきた僕を、晴は待っていてくれるだろうか ——

「そういうおまえこそ何でこんな所に？」

「うん？別に・・・きつとここにいますだろうなって思って、それで・・・」

長い髪が風に揺れる。どこか寂しそうな顔。きつと今の僕も、こんな寂しい顔しているんだろう。プロポーズできないでいる僕は情けないと思う。決心が付かないのだ。だから今日、ここに来た。この川には昔はよくカワセミを見かけた。しかし最近ぱったりと見なくなった。今日、もしカワセミを見られたらプロポーズする。

「あのさ、始めて会ったときに、幼稚園くらいだった？そのときに川をのぞき込んだよね。何してたの？」

「きれいな青い鳥、探してた。青い鳥は幸せを運んでくるって、絵本で見たから」  
そして、僕と出会った。

水面がかすかに歪んだ。美しく青い鳥が水面を滑るように飛んで、また藪の中へ消えていった。カワセミだ。僕の名は翡翠からもらった。幸せを運ぶ青い鳥になれるように。

鼓動が早くなる。手に汗を感じる。

「あのさ、ずっと決心つかないでいたけど」

僕はうつむいて、鞆から取り出した小箱を押しつけるように渡す。

「これ何？」

僕は寂しくて泣き出しそうになって、答えもせず走り出した。結局プロポーズはできなかった。きつと晴は僕の後ろ姿を見て小箱を手に、不思議に思っているだろう。けど開けたら、きつと僕の言いたいことを分かってくれる。箱の中にはエメラルドの指輪が一つだけ入っている。

翠玉。それは僕の名前で、僕らの初めてであつた日の誕生石。

—— 今日、もうすぐ六月になろうという、初夏の日。 ——

## グリーンピースの悪夢

私は、パニックに陥っていた。右の鼻の穴から呼吸が出来ない。片方の穴が詰まってしまった。これは大変だ。何も分からずに泣き出してしまった。

私が小学校低学年の頃、二度と忘れる事ができない出来事が起きた。夏のある日の夜、私は家族みんなで夕飯を食べていた。その日の夕飯のメニューは、たしかご飯、みそ汁、海老などのてんぷら、そしてグリーンピースが入った野菜の炒め物だった。

その頃はまだ私も小さく全く落ち着きが無く、よくふざけていた。そのため食べ物も箸も使わずに手で食べる事もあった。そのせいでその日自分にとって衝撃的な出来事が起きてしまった。

私は、ふざけながら手を使って海老を食べていた。親にも注意される事無く自分の思うままに食べた。てんぷらを食べ終わると次に問題のグリーンピースにまでも行儀が悪い事に手を差し伸ばした。その緑色の物体を手で掴み口の中に放り込んでいた。何個目かのグリーンピースでふざけて鼻に入れる振りをしてふざけていた。その時に手が滑ったのかグリーンピースを落としてしまった。最悪な事に鼻の中に。その緑色の物体は鼻の奥でちようどつまり息が通らなくなった。左の鼻の穴を押さえて一気に鼻息をだしても全く取れない。小さかった事もあり本当に混乱して何がなんだか分からなくなってしまった。家族も心配してたが全く取れなかった。しかし、神様が見ていてくれたのだろうかそのとき大きなくしゃみをしてあの緑色の物が取れた。もの凄く救われた感覚がした。

子供が小さい物を持っていたら気をつけて。鼻に入れてしまうかもしれないから。

空には雲ひとつなかった

透き通る青に対称的な緑が広がる

鬱蒼と茂る森の中に一軒の古びた屋敷があった

館の主人はテラスの安楽椅子に腰かけていた

聞こえてくるのは木々の触れ合う音と鳥の鳴き声だけ

愁いの表情を浮かべ静かに目を閉じ考えを巡らす

人は死ぬとどこへ行くのだろうか

宗教家は善人が天国へ悪人は地獄へ行くという

当然人を殺せば地獄へ落ちるだろうと

だが戦争となれば奴らは人を殺せと急かす

今度は一人でも道連れにし国のために働けば往生するという

矛盾もいところだ

所詮宗教は人を手駒にする道具

広く大衆に受け入れられればそれでいい……たとえでつち上げでも

なぜ人は人を殺すのだろうか

最近では理由もなく殺されるらしい

あるうことか自らの子供にも手を出すという

劣等とされる獣でもそんなことはしない

ただ文明という監獄に閉じ込められた獣の本能が作り出した一種の遊戯かもしれない

弱肉強食の世界でしか生きられない……知恵ある獣なのだと

わたしは死にたくない

贅沢な悩みかもしれない

数えきれない命をモノに変えてきたというのに

全てが終わった時多くの仲間が絶望して死んでいった

わたしもそうだった

慣れた手つきで心臓にナイフを向けるところまではできた

だが貴くことができなかった

往生際が悪いと激しく叱責された

気がつくと走って逃げてこの森にたどり着いた

いつまでたっても死ぬ決心がつかない

生き恥をさらしてまで生きる価値などないというのに

それでも最近気づいたことがある……死ぬより生きる方が難しいのだと

ゆつくりと目をあける

目の前の緑が眩しかった

風の運ぶ香りが鼻をくすぐり夏の到来を知らせる

急に眠気が襲った

このまま深い闇に堕ちて二度と起きなければと思っ

再び目を閉じた

その瞳は最後まで鮮やかな緑を映していた



## ア。パート18階のしだれ柳

希望は死じやっだ。会社では首になり、彼女にも振られちゃった。仕方なく道を歩いてた。今からどうするのか、そんなのはどうでもよかった。ただあたまがぼうつとして、何も考えずに歩いた。そしてひよいと気がついたら高いビルの森に入っていた。

‘今俺の気持ちと同じだな。どこを見ても灰色ばかりね、’

今、そして未来をみせてくれるような暗い建物に囲まれていた。一回振り向いてみると変なのが見えた。十何階ぐらいに見えるところにそびえたかすかな緑色の物体。かばんからめがねをだしてかけたら、はつきりと緑色のしだれ柳が見えた。

‘どうしてそんなところに木が…’

再びあたまがぼうつとなつて、木を見つめた。そして悟った。あのほっそりした木が生命をもっているのは、そんなところ緑色をひろげるのは水や養分があるからじゃないことを。生き物ならすべてが持っている、生に必要なたったひとつの要素というのを。

それは、‘意志’、ということ。

‘サンキュー柳ちゃん。おれ、がんばってみるね、’

見ることでだけでふらふらする高さのアパートにそびえた緑の木をもう一度みて、にっこり笑った。そう、もう一度やってみよう。俺には、‘意志’があるから。再び立ち上がって走ろうとする意志が。

## 未来の緑

緑あふれる大地や緑生い茂る平野、緑髪。「緑」には自然や生命力の強さを表す意味がある。実際、郊外に出れば山間部には大自然が広がり、木々で緑一色に染まっている。

私たちが未来に抱くイメージはどうだろう。

そこに緑色はでてくるだろうか？ 私たちの一世代か二世代前まで「未来」といえば超高層ビルやロボットといった無機質つまり「銀」や金属光沢が未来の「色」だった。ドラえもんや鉄腕アトムがまさにそのような描写であつたし、その描写が素直に受け入れられ、その時代の未来感に大きな影響を与えたことは確かだ。事実、それを目標として工業化を目指し、今に至る。

未来にも生い茂る森林はあるだろうが、どんなに努力しても科学的に人の手が加えられていることだろう。むしろ、努力する事自体、人の手が加わっていることなのかもしれない。人の手が加えられれば当然、自然ではない。そうすると、現在の意味の「緑」は上辺だけになり、実際は人工的で科学的に支援を受けた生命力をもった「緑」となることになる。

銀に向かう私たちの未来に少しずつ現在の緑を混ぜる必要がある。ただ、意識する者が全て同じ方向に進まないと、やがては混ざった色は黒となり、何色にも染まらない世界となってしまうことは肝に銘じておかなければならない。

## ツワブキの花

朝、教室に着いたら、あいつの席の上に、花が置かれていた。なんだか、あいつが花になってしまったみたいだった。

昼、その花の世話を担当する俺は、水を取り替えるために流しに持ってきた。今にも折れそうなほどか細いその茎に、俺はあいつを重ねていた。

夜、電気も付けずに、ベッドに寝そべる。涙は、昨日の内に流しつくした。天井を背景に、あいつの顔を思い出す。よし、明日もがんばろう。

朝、あいつが少し首をもたげていた。やはり水だけじゃ、栄養が足りないのだろうか。明日、水に混ぜて使うタイプの肥料でも買ってこよう。

昼、あいつの目に映えた緑の茎も、少し茶色がかってきた。なんだか、事故直後の血に染まったあいつみたいだった。

夜、何をするでもなく、ベッドの上で目をつむる。あいつの顔は今も鮮明に思い出せるのに、あいつの温もりが思い出せない。無理矢理、俺は寝た。

朝、昨日買った肥料を水に入れる。早く、元気を取り戻してくれよ。二度もお前を死なせたくないんだ。

昼、午前の授業の間に、何枚かの花卉が散っていた。俺はそれを手に取り、少し迷った挙句に、それを口にした。

夜、今度こそあいつの温もりも思い出せるだろうか。あの花卉たちが、それを助けてくれるかもしれない。でも、それは俺の幻想だった。

朝、花が机の上に落ちていた。

昼、茎も完全に枯れてしまった。

夜、俺も花になりたいと思った。

時間が経てば、花は枯れる。それは知っていた。時間が経てば、悲しみは消える。それも知っていた。

どちらも、知っているだけだった。

「このごろ、ずいぶん暖かくなってきましたね。」

「そうですね。」

「つい前まではピンクの服がはやっていたと思ったら、もう緑一色ですからね。」

「まあ、衣替えの時期ですからねえ。」

「この時期は過ごしやすくいいですね。」

「そうですね。でも、毎年このころになると、私たちの緑の服を食べてしまう子達が出てくるのがいやなのよねえ。」

「そうそう、あの緑で丸々太った子達！この前なんて、あの子達の親が私の自慢の服に卵を産んでいったのよ！？」

「まあ、それは大変ねえ……。」

「そのあとなんでもっと大変だったんだから。その子の兄弟がどんどん私の服を食べていて、なくなるかなくならないかくらいまで行っただんだもの。あのととき業者の人がきてくれてなかったら、私、枯れちゃってたかも……。」

「それはひどいわねえ。しっかり対策立てなきや。私たち、緑の服がないと養分が蓄えられなくて、冬過ごせなくなっちゃうからねえ。」

「そうね、お互いあの緑の子たちには気をつけましようね。」

## 終わり

「なあ、やつぱりここってなくなっちゃうのかな。」

青々と茂る木が何本か生えているちよつとした丘があった。その周りには好き放題に伸びた背の高い草が枯れてしまった荒地があった。ここは僕らの秘密基地。僕らはここでブランコを作った。迷路を作った。草の家を作った。そして目が沈むまで夢中に遊んでいた。しかし、その楽しい日々も終わりを告げようとしていた。この場所にマンションが建てられることになったのだ。

僕らはいつもどおりに集まり、寝転んで夕日をぼんやりと眺めていた。

「なあ、やつぱりここってなくなっちゃうのかな。」と誰かがつぶやいた。

「……………」

「……………」

「……………」

それからしばらくの間誰も口を開かなかった。ふと気づくとあたりはすっかり暗くなっていて、肌寒く感じた。

それからしばらくたってあの場所に訪れると、そこには木も丘も草もなくなった平らな土地となっていた。重い足取りで近づいてみると『マンション建設予定地』という看板が端のほうにささっているのに気づいた。しばらく看板を見つめながら突っ立っていたが、ふと看板の下のように目を向けると濃い緑色の芽が出ていた。どんな花が咲くのだろうと思っていると、芽の形がぼやけてきたので、ぎゅつと目をつぶった。そしてその場を走り去った。

「——おまえもいなくなっちゃうのかな。」と言ひ残して。

| コンテスト結果 |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |      |
|---------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| [Aの部]   |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |      |      |
| コラム番号   | コラムタイトル    | 点数                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 順位   | 特別賞  |
|         |            | まじょコメント                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |      |
| A01     | みどり        | 1 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 9 位  | 7 sp |
|         |            | うーん、楽屋落ちコード、ぎりぎりか。ごめんなさい気分は伝わってきました。<br>当然「出直し」があるものと期待。<br>それにしても特別賞の嵐でしたね。7 賞ゲット。しかし、ポジティブな推薦理由は金賞のみ?? イチオシフレーズを並べたら、作品のほとんどがカバーされちゃう、というのも珍事ではありました。<br>特別賞：もう少しがんばりま賞/がんばりま賞/ねらっちゃダメで賞/出直してきま賞/金（緑なのに）賞（授賞理由：ガンバッタ感じがでてる!! かなり考えたと思う）/やる気ないで賞/力量不足で賞<br>イチオシフレーズ：「みんなごめんなさい」×2 「思いつきません」「力量不足です、出直してきます」 |      |      |
| A02     | 河川敷にて      | 12 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 4 位  | 2 sp |
|         |            | なつかしの逆上がり。父の視点から伸びゆく息子を見ているところが新鮮です。「俺はその背中を押してやるだけでいい」というフレーズにしっかり気持ちが乗っていました。<br>いいパパになりますように。<br>特別賞：父になりきってるで賞/ヘタレ賞（父親のへたれっぷりがいい）                                                                                                                                                                        |      |      |
| A03     | ミドリ        | 16 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 3 位  | 1 sp |
|         |            | タイトルのとってつけた感に、まず笑えて。みなさま、タイトルはお忘れなく。<br>フリーター君が、ほんのりしあわせになるストーリー。コイツへの愛情がしっかり伝わって、でも妄想全開でハッピーエンドに行くのではなくて。<br>そんなほんのりさ加減が、ほどよい読みごちでした。枯れ行く彼女の姿が、ちょっと点描されると、なお良かったのでは。<br>特別賞：こんな恋愛もアリで賞                                                                                                                      |      |      |
| A04     | ASUPARA    | 0 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 10 位 | 0 sp |
|         |            | あざやかな色。おいしそうな色。飾り気なくさらりと書かれていて好感を持って読めます。テープの色分けのあたり、実体験らしさを感じさせます。<br>できれば、食べ物のお話なので、色だけでなく味の描写も欲しかった。それと、おじいさんがアスパラ作りをやめたわけも。                                                                                                                                                                              |      |      |
| A05     | エメラルド      | 21 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2 位  | 0 sp |
|         |            | 翡翠（ひすい）と翡翠（かわせみ）、おんなじ字なんですね、ふむ。<br>緑尽くしのラヴ・ストーリー。小学生かと言いたくなるオクテの恋の告白をほほえましいと支持したAブロックのみなさまは、まだまだケガレなき心の持ち主です、きっと。そんなリトマス試験紙的作品（え?）。<br>えーと、マジメにコメントすると、上京期間がジャマな感じがします。田舎からいきなりパリへ、のほうが別れがドラマティックだったのでは？<br>そして、だいじな恋の告白すらできないアキラ君の産みの親が、こんなに自己アピール上手な作者さんだったことにびっくり。<br>イチオシフレーズ：「あのさ、ずっと決心つかないでいたけど」       |      |      |
| A06     | グリーンピースの悪夢 | 5 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 5 位  | 1 sp |
|         |            | まさに悪夢ですね。献立がリアルなところ、実話と推定。実感をもって読めました。<br>クライマックスシーンのあたり、できごとを羅列しているだけで単調か。<br>語尾が「――た」「――た」と続くと単調で小学生作文っぽくみえてしまうので、そのあたり変化を付ける工夫をすると、ぐっと〈文章年齢〉がアップします。おためしあれ。<br>特別賞：これは何で賞（授賞理由：これを読まなかったらいれてたかもしれないから。作者さんありがとう）                                                                                          |      |      |

|     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |      |      |
|-----|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| A07 | 緑の館          | 4 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 7 位  | 1 sp |
|     |              | <p>元戦士（？）の思索。今の世界と重ね合わせながら、少しファンタジックに味つけ。「死ぬより生きる方が難しい」というフレーズがずっと入ってきました。</p> <p>狙いは悪くないと思うのですが、せっかく架空の世界を作り出したのですから、もっと彼の個人史を見せて語りたかった。</p> <p>特別賞：もっと言いたいことがあったんで賞</p> <p>イチオシフレーズ：知恵ある獣</p>                                                                                                                                                                                |      |      |
| A08 | アパート18階のしだれ柳 | 0 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 10 位 | 0 sp |
|     |              | <p>柳の下にはお化けがいるぞ！　と思うのは私たち日本人。</p> <p>でも、これは留学生さんの作品で、柳のけなげさに、また走り出せる気持ちが宿ります。無理ない展開で、サンキュー柳ちゃんへ。「希望は死ぬ」なんて、留学生さんだからこそできるユニーク表現ですよ。</p> <p>イチオシフレーズ：「死じゃった」「希望は死じゃった」</p>                                                                                                                                                                                                       |      |      |
| A09 | 未来の緑         | 5 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 5 位  | 0 sp |
|     |              | <p>緑という〈色〉をナマの色としてそのままとらえ、銀と対比しつつ、ラストで黒へ。</p> <p>その色変化があざやかで、論理展開がきっちり〈色〉の印象として残るところが良さと読みました。</p> <p>ラスト「肝に銘じる」というカタい（　新聞風の）言い方をすると、ちょっとエラそうかな。「なってしまうのではないだろうか」と問いかけでふわっと終わるくらいでどうでしょう？</p>                                                                                                                                                                                  |      |      |
| A10 | ツワブキの花       | 24 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 1 位  | 0 sp |
|     |              | <p>朝、昼、夜。朝、昼、夜。そのくりかえしがせつない。そうしたクレッシェンドの果てに「どちらも知っているだけだった」とラスト1行がずどん。くやしいけれど（くやしがることないか）おみごとです。当然の首位、というところでしょうか。おめでとう！</p> <p>それにしてもツワブキ。地味な花だなあ。これ、バラとか百合とか、チューリップとかひまわりとか、すぐにパッと思い浮かぶものじゃ似合わないですよ。ぼうばくと、読者が好きなように想像できる地味な花がいい。</p> <p>そんな花選びからして、もうプロ級です。冥王星がリストカットしてツワブキの花びらを散らしたあとは、さてどこへ？</p> <p>イチオシフレーズ：「どちらも知っているだけだった」×5、「二度もお前を死なせたくないんだ」　おお、イチオシフレーズ大賞もゲットです。</p> |      |      |
| A11 | 木々の世間話       | 2 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 8 位  | 3 sp |
|     |              | <p>につくきアブラムシめ！　おばさまの世間話風のおっとり加減が吉。その雰囲気良さが評価されて、3つの賞をいただきました。</p> <p>せっかくの会話なので、おふたりの性格の違いが描き分けられると、もっとおもしろかったかも。</p> <p>それにしても、タイトルを左下に小さく置くのがミョーに流行ってますね。誰のせいだっ？</p> <p>特別賞：たぶん桜で賞/会話で賞（書こうと思ったらむずかしい）/メルヒェン賞（単純におもしろかった）</p>                                                                                                                                                |      |      |
| A12 | 終わり          | 0 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 10 位 | 0 sp |
|     |              | <p>緑の芽を見つめながらの描写で失われ行くものへの哀惜の思いは伝わってくるのですが、年齢設定があいまいなので、想像の姿がぼやけます。</p> <p>仲間たちの名前や性格、小学校何年生なのか、季節はいつ？　と細かな条件を緻密に埋めてゆくと、よりくっきり悲しみの形が出たのでは。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |      |      |



| コラム番号 | コラムタイトル     | 点数<br>まじょコメント                                                                                                                                                                                                                                         | 順位   | 特別賞  |
|-------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| B01   | 青＋黄＝緑       | 3 pt<br>いいなあ、これ。一見、ささっと仕上げたように見えて深い。絵本にしたようなコンセプト。<br>視覚効果を狙ってレイアウトやフォントを工夫すると、よりよいのでは。それにしても、みなさま「萌」の1文字に反応しすぎですって。「本来の萌賞」までいただいて、最多特別賞の荣誉ゲットです。<br>特別賞：シンプル賞/萌えるで賞/10秒でよめるで賞/本来の萌賞<br>イチオシフレーズ：「萌え」                                                 | 7 位  | 4 sp |
| B02   | 環境と問題と人間    | 0 pt<br>「私達はもっと環境問題を「私」の範囲に取り込んでゆくべきだと思う」というキーフレーズの主張が、ずっと立ってきます。主張のコアはきちりできているので、三題ばなし風の構成でないほうが、遠回り感がなくて良かったのでは。<br>それと、さいご2行が惜しい。「言葉遊び」とまとめてしまうと、せっかくのテンションが下がってしまいます。<br>冒頭とラストは、いちばんの勝負どころ。これ基本。コンセプトはきちりできているので、あとは構成力が課題かと。                    | 12 位 | 0 sp |
| B03   | 緑の羽根        | 8 pt<br>小さな善意、その場限りで終わらないことがたいせつ、というメッセージが、緑の羽根という小物に託してきちり伝わってきます。<br>ムりにこしらえごとをしないのびやかさ。そして、これだけしか字数を使っていないのに、しっかりとユニークな考察まで届いているところが、ほぼ理想に近い仕上がりでした。                                                                                               | 3 位  | 0 sp |
| B04   | ▲例えば…緑って??▼ | 6 pt<br>まんなかのキリトリ線が謎ですが。<br>日常の光景の中でつらつら紡いだ小さな思索。理屈く感覚、と1行の主張にしてしまうとありきたりのものを桜やりんごで彩ったのが良さです。<br>特別賞：切りとり線で賞（メンバーの心をつかんだ）<br>イチオシフレーズ：「りんごが落ちた。ただそれは地球が食べたかっただけだよ。。。」「抱きしめたいのは好きだから」ラスト1行のインパクトがヒットして、イチオシフレーズ大賞ゲットです。                                | 6 位  | 1 sp |
| B05   | 緑           | 8 pt<br>子どもの名前がふたりのなれそめ。そんなほのぼのストーリーが好ましい。赤ちゃんを焦点に幸せ疑似体験をどうぞ。<br>ただ、なんでタイトルに「緑」なんていう、お題そのまんまなものを付けたのでしょうか。「みごりご」に一票。<br>特別賞：あと一歩だったで賞/盛りあがった賞（ノンフィクションじゃないよね!?と盛り上がった）<br>イチオシフレーズ：「ソイツを○せばいいだけだ……」×2 「ヒロ」                                            | 3 位  | 2 sp |
| B06   | クレヨン        | 3 pt<br>クレヨン、です。ひとつの色をひたすら塗り続けるひたむきなクレヨンです。そんなクレヨンの性格が語り口にそのまま乗っているところが何よりの魅力でした。「真白で、ビクビクしている画用紙」など、細部の表現も新鮮。<br>ときに、このクレヨン君は緑なのでしょうか。色ごとのキャラクター付けがちょっとあってもおもしろかったのでは。<br>特別賞：頑張ったけどよく分からなかったで賞                                                      | 7 位  | 1 sp |
| B07   | 科学実験        | 33 pt<br>「地球は青かった」「人間は緑だった」。光合成人間登場です。<br>ふとした日常から人類初の偉業へ、そして……起伏の多い展開なのに、ちっとも窮屈でないのは、科学者風のたんたんとした語り口も勝因かと思います。予想通り、圧勝でした。おめでとう!!<br>ときにカエル人間、しおれたあと、マニンゲンに戻れたのでしょうか？その後、が気になるところです。<br>特別賞：ナメック賞（ナメック星人（ピッコロ）を思い出したから）/失敗で賞<br>イチオシフレーズ：「実験は失敗におわった」 | 1 位  | 2 sp |
| B08   | 受け継がれるもの    | 17 pt<br>秘密基地。それだけでワクワクする響き。<br>ラストでふふっと笑って、くるとタイトルを振り向くと「受け継がれるもの」、ああそうか、きっと秘密基地で遊んだ子どもがおとなになって、その思いを受け継いでゆくんだな、と納得。<br>コラムランドもそうでありたいなあ、なんて。                                                                                                        | 2 位  | 0 sp |
| B09   | 五月病         | 2 pt                                                                                                                                                                                                                                                  | 9 位  | 1 sp |



|     |       |                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |       | <p>季節のうつろいに気持ちの変化を乗せてゆく構成が、読みやすく共感しやすいです。</p> <p>こうやって言葉の形にすることで閉塞感が少しでもほぐれてゆくといいな、と思いつつ読みました。</p> <p>その後――お茶会で、とっても陽気な作者さんに遭遇。「ぜ〜んぶウソだよ〜ん」だそうな。</p> <p>特別賞：焦ってるで賞</p> <p>イチオシフレーズ：「焦りにを感じる」</p>                                             |
| B10 | 夏の思い出 | <div>1 pt10 位2 sp</div> <p>白い蝶の儚さで消えた初恋。ていねいに組み立てられたこちよいストーリーです。</p> <p>ちょっと淡すぎて、色の個性が欲しい気もするけれど、それは趣味の問題かも。</p> <p>特別賞：妄想が激しすぎるde賞/恋愛小説をよみすぎで賞</p> <p>イチオシフレーズ：「これが僕と彼女の出会いだった。」</p>                                                        |
| B11 | 脱走    | <div>1 pt10 位0 sp</div> <p>うわスゴイ。看板まで読めちゃうインテリジェント・インコだ。</p> <p>なんと言っても、「人間なんていなくなればいいのに…」というラストの眩きが、そうやって人間が作ってくれたねぐらに戻ってゆくくせに、という矛盾で笑わせて秀逸です。</p> <p>イチオシフレーズ：「もう、人間なんていなくなればいいのに…」×2</p>                                                  |
| B12 | コト    | <div>8 pt3 位2 sp</div> <p>何だかちょっとタイクツだなあ風景ばかりで……とラストまで行くとタネアカシ。あ、そうかとさやさや爽やかな風が吹きます。</p> <p>うん、コトノハは分かったけど、じゃあ、コトノミは何？ なんて聞いちゃうのはイザワルなんですか。</p> <p>何はともあれ、3回目にして初のポイントゲットが、いきなり受賞トークの栄誉となったことをお慶び申し上げます。</p> <p>特別賞：いやし賞（いやされました。）/ブービー賞</p> |